

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-278732
(P2000-278732A)

(43)公開日 平成12年10月6日(2000.10.6)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

FI

テーク・アップ (参考)

H04Q 7/14
7/22

H04B 7/26

103C 5K067
107

審査請求 有 請求項の数11 O L (全 9 頁)

(21)出願番号

特願平11-83644

(22) 出願日

平成11年3月26日(1999.3.26)

(71)出願人 000197366

静岡日本電気株式会社

静岡県掛川市下俣800番地

(72) 發明者 宮下 真文

静岡県掛川市下俣4番2 静岡日本電気株式会社内

(74) 代理人 100080816

弁理士 加藤 朝道

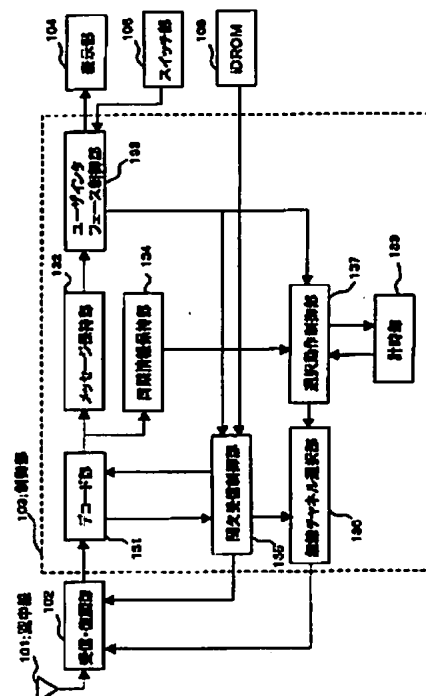
Fターム(参考) 5K067 AA21 BB22 DD11 DD51 EE02
EE56 FF05 HH23 JJ12 JJ39
JJ61 KK15

(54) 【発明の名称】 無線選択呼出受信機及びそのエリア選択方法

(57) 【要約】

【課題】近接するエリア（無線チャネル）においてその有効エリアがオーバラップする際に、受信するチャネルが頻繁に切り替わることを回避する方法及び装置の提供。

【解決手段】複数の地域で使用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する機能を持つ無線選択呼び出し受信機において、受信機上で所定の設定操作が行われた後に、再び所定の操作を行って前記設定を解除をするまでの間、無線チャネル選択手段での無線チャネルの自動選択動作を停止させるように制御する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】複数の地域で利用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する機能を持つ無線選択呼出受信機のエリア選択方法において、前記受信機上で、所定の設定操作が行われた後に、再び所定の操作を行って前記設定を解除するまでの間、無線チャネルの自動再選択動作を停止させる、ことを特徴とする無線選択呼出受信機のエリア選択方法。

【請求項2】無線チャネルの自動再選択動作を停止させる設定操作を行う際に、再度、無線チャネルの自動再選択動作を再開するまでの期間もしくは再開する時間を設定し、前記期間中、もしくは前記時間に達するまで、無線チャネルの自動再選択動作を停止させる、ことを特徴とする請求項1記載の無線選択呼出受信機のエリア選択方法。

【請求項3】複数の地域で利用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する機能を持つ無線選択呼出受信機のエリア選択において、受信したメッセージの中に予め定めたコード情報が含まれている場合に、制御メッセージと判定し、無線チャネルを自動的に選択する動作を、前記制御メッセージに含まれる指定期間中、あるいは指定時間まで停止する、ことを特徴とする無線選択呼出受信機のエリア選択方法。

【請求項4】複数の地域で利用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する機能を持つ無線選択呼出受信機のエリア選択方法において、メッセージの受信を行う無線チャネルを新たに捕捉した際に、前記無線チャネルが、予め設定されている、無線チャネル自動選択が禁止されている登録チャネルである場合、受信機携帯者が所定操作を行って無線チャネル自動選択禁止を解除するまでの間、あるいは、予め定めた期間、無線チャネルを自動選択する動作を停止する、ことを特徴とする無線選択呼出受信機のエリア選択方法。

【請求項5】前記無線チャネルを自動選択する動作を停止している間に、その終了時間を変更可能とされる、ことを特徴とする請求項3又は4記載の無線選択呼出受信機のエリア選択方法。

【請求項6】複数の地域で利用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する無線チャネル選択手段を備えた無線選択呼出受信装置において、入力手段から無線チャネル自動選択禁止のための所定の入力操作が行われた際に、前記無線チャネル選択手段における無線チャネルの自動選択動作を停止させるように制御する手段を備えたことを特徴とする無線選択呼出受信装置。

【請求項7】前記入力手段から、無線チャネル自動選択禁止解除のための所定の入力操作が行われるまで、前記無線チャネル選択手段における無線チャネルの自動選択動作を停止させることを特徴とする請求項6記載の無線選択呼出受信装置。

【請求項8】前記無線チャネル自動選択禁止のための所定の入力操作時に、前記無線チャネル自動選択禁止の期間を定める情報が入力され、計時手段が前記期間に達したことを検出するまで、前記無線チャネル選択手段における無線チャネルの自動選択動作を停止させる、ことを特徴とする請求項6記載の無線選択呼出受信装置。

【請求項9】複数の地域で利用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する無線チャネル選択手段を備えた無線選択呼出受信装置において、受信したメッセージが、前記無線チャネル選択手段の無線チャネルの自動再選択動作の禁止又は許可を指示する設定情報が挿入されている制御メッセージであるか否かを判別し、前記制御メッセージである場合、前記設定情報から、無線チャネルの自動選択動作の禁止又は許可の設定、及び禁止の場合には禁止時間情報を抽出する手段と、

前記抽出された情報に基づき、前記無線チャネル選択手段における無線チャネルの自動選択動作を前記禁止時間情報で規定される期間中または時間まで停止させるように制御する手段と、

を備えたことを特徴とする無線選択呼出受信装置。

【請求項10】前記無線チャネルを自動選択する動作を停止している間に選択動作停止の終了時間を入力手段からの入力により変更自在とされていることを特徴とする請求項9記載の無線選択呼出受信装置。

【請求項11】前記制御メッセージが、メッセージの種類が制御メッセージであることを識別させるための符号列と、前記無線チャネル選択手段の無線チャネルの自動選択の許可、又は禁止の設定情報と、前記無線チャネル選択手段の無線チャネルの自動選択の選択動作禁止設定の場合の禁止状態の持続時間の指定を行う情報欄と、前記制御メッセージの内容を、受信機携帯者に対して通知するか否かの設定を示す通報指定情報欄と、通知許可の場合に表示部に表示するメッセージ情報を格納するメッセージ欄と、を含むものである、ことを特徴とする請求項9記載の無線選択呼出受信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、無線選択呼出受信機に関し、特に、複数のエリアで選択呼び出しを受信することが可能な無線選択呼出受信機に関する。

【0002】

【従来の技術】無線周波数の異なる複数のサービスエリアで選択呼び出しを受信することが可能な無線選択呼出受信機（ページャ端末）は、使用する場所を移動する際に、受信を行う無線チャネルを、使用するエリアに合わせて、再選択する必要がある。

【0003】また、無線チャネルのトラヒックを抑えるため、無線選択呼出受信機に対してメッセージの送信が

実際に行われるのは、複数あるエリアの中から受信機携帯者が選択した1つのエリアのみである。

【0004】従来の無線選択呼出受信機では、受信機携帯者は、エリアを移動した際に、受信機の動作エリア（無線チャネル）を移動先のエリアに設定するとともに、前述したメッセージの送信を行うエリアを、受信機の設定と同じエリアに登録する。この登録動作は、通常、無線選択呼び出しのシステム（ページャサービス）提供者に対して依頼を行うことで行われる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】近時、無線選択呼出受信機には、移動先のエリアの無線チャネルに設定する際に、受信機携帯者が予め定められた所定の操作を行うことで、自動的に無線チャネルを選択する機能を具備したものも現れているが、自動的に無線チャネルを選択する動作は、これを操作した時のみ行われるものであるため、受信機携帯者がエリアを移動した際に、無線チャネルの再選択を行うことを忘れる等の問題がある。

【0006】この問題点に対処するため、無線選択呼出受信機において、受信を行っている無線チャネルでのデータの着信が困難になった際に、自動的に次に受信を行う無線チャネルの選択を開始する機能が従来より提案されているが、エリアがオーバーラップしている場合、一時的に受信状態が悪くなった際に、無線チャネルの再選択動作を行った結果、異なるチャネルに同期確立したり、あるいは、同じ無線チャネルに同期確立したとしてもその復帰に要する時間が、自動選択機能が入ることにより、長時間要するという場合も予想され、その結果、無線選択呼び出し（メッセージ）を着信し損ねる可能性もある。

【0007】したがって、本発明は、上記問題点に鑑みてなされたものであって、その目的は、近接するエリア（無線チャネル）においてその有効エリアがオーバーラップする際に、受信するチャネルが頻繁に切り替わることを回避するとともに、呼び出し登録エリアと受信チャネルが一致しないことによるメッセージの呼び抜け、また、呼び出しを行うエリアの登録動作（位置登録）が頻繁に行われることを回避する方法を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成する本発明は、複数の地域で使用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する機能を持つ無線選択呼出受信機において、前記受信機上で所定の設定操作が行われた後に、再び所定の操作を行って前記設定を解除するまでの間、無線チャネルの自動再選択動作を停止させる、ことを特徴とする。

【0009】本発明においては、無線チャネルの自動選択動作を停止させる設定操作を行う際に、再度、無線チャネルの自動選択動作を再開するまでの期間もしくは再

開する時間を指定入力し、前記期間中、もしくは前記時間に達するまで、無線チャネルの自動再選択動作を停止させる。

【0010】また本発明においては、受信したメッセージの中に予め定めた文字列があった場合、無線チャネルを自動的に選択する動作を、前記文字列に引き続く文字列で指定された期間、あるいは、指定された時間まで停止する。

【0011】そして、本発明においては、メッセージの受信を行う無線チャネルを新たに捕捉した際に、前記無線チャネルが、予め設定されている、無線チャネル自動選択が禁止されている登録チャネルである場合、受信機携帯者が所定操作を行って無線チャネル自動選択禁止を解除するまでの間、あるいは、予め定めた期間、無線チャネルを自動選択する動作を停止する。

【0012】

【発明の実施の形態】本発明の実施の形態について説明する、本発明は、複数の地域（エリア）で使用可能な無線選択呼出受信機（「マルチエリア無線選択呼出受信機」ともいう）において、メッセージを着信する無線チャネル（「受信エリア」）を自動的に選択する機能を持つものにおいて、受信機携帯者が所定の操作を行った後、再度特定の操作を行って解除をするまでの間、自動的に無線チャネルの再選択を行う動作を停止させる構成とされている。

【0013】本発明においては、受信機携帯者が自動的に無線チャネルの選択機能を停止させる設定操作を行う際に、再度自動無線チャネル選択機能を再開するまでの期間、あるいは、再開する時間を指定する構成としてもよい。

【0014】また、本発明は、その好ましい実施の形態において、受信したメッセージの中に予め定めたコード列が含まれている場合、制御メッセージと判別し、無線チャネルを自動的に選択する機能を、制御メッセージに設定されている、指定期間分、あるいは、指定時間まで停止するように構成してもよい。

【0015】メッセージの受信を行う無線チャネル（エリア）を新たに捕捉した際に、その無線チャネル（エリア）が予め設定しておいた、無線チャネル自動選択の禁止登録チャネルの場合、受信機携帯者が所定の操作を行って解除設定するまでの間、あるいは、予め定めた期間、無線チャネルを自動選択する機能を停止するように構成してもよい。

【0016】本発明に係る無線選択呼出受信機は、その好ましい実施の形態において、複数の地域で使用可能とされ、メッセージを着信する無線チャネルを自動的に選択する無線チャネル選択手段（図1の136）を備えた無線選択呼出受信機において、入力手段（図1の105）から無線チャネル自動選択禁止のための所定の入力操作が行われた際に、無線チャネル選択手段（図1の1

36)における新たな無線チャネルの自動選択動作を停止させるように制御する手段(図1の137)を備える。また入力手段から、無線チャネル自動選択禁止解除のための所定の入力操作が行われるまで、無線チャネル選択手段(図1の136)の無線チャネルの自動選択動作を停止させる。あるいは、無線チャネル自動選択禁止のための所定の入力操作時に、無線チャネル自動選択禁止の期間情報が入力され、計時手段(図1の138)が前記期間に達したことを検出するまで、無線チャネル選択手段(図1の136)における新たな無線チャネルの自動再選択動作を停止させる構成としてもよい。

【0017】本発明に係る無線選択呼出受信機は、その好ましい実施の形態において、メッセージの受信を行う無線チャネルを新たに捕捉した際に、該記無線チャネルが、予め設定されている、無線チャネル自動選択が禁止されている登録チャネルである場合、無線チャネル自動選択禁止を解除するまでの間、あるいは、予め定めた期間、新たな無線チャネルを自動選択する動作を停止するように構成してもよい。

【0018】また本発明に係る無線選択呼出受信機は、その好ましい実施の形態において、受信したメッセージが、前記無線チャネル選択手段の無線チャネルの自動再選択動作の設定情報が挿入されている制御メッセージであるか否かを判別し、前記制御メッセージである場合、前記設定情報から、無線チャネルの自動再選択動作の禁止又は許可の設定、及び禁止の場合には禁止時間情報を抽出する手段(図4の429)と、前記抽出された情報に基づき、前記無線チャネル選択手段の無線チャネルの自動選択動作を、前記禁止時間情報で規定される期間中または時間まで停止させるように制御する手段(図4の437)と、を備えた構成としてもよい。

【0019】

【実施例】本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1は、本発明の一実施例をなす無線選択呼出受信機の示すブロック図である。図1を参照すると、無線選択呼出受信機は、空中線101と、受信復調部102と、制御部103とを備え、空中線101と受信復調部102を経て復調された信号を制御部103内のデコード部131にて解析する。

【0020】デコード部131は、復調されたデータを解析し、無線アドレスが送信されるタイミングにて、無線アドレス等の所要情報データを格納した読み出し専用メモリであるiDROM106を参照し、該iDROM106に格納された無線アドレスと一致するデータを受信した場合、間欠受信制御部136に対して通知を行い、無線アドレスのデータに付随するメッセージについても受信を行い、メッセージの着信を行った結果を、メッセージ保持部132に転送する。

【0021】デコード部131は、この他、現在通信を行っている基地局の情報についても受信を行い、同期情

報保持部134に転送する。

【0022】間欠受信制御部135は、iDROM106に格納されている無線設定情報と、デコード部131から出力されるタイミング情報や無線アドレス、自己宛メッセージの受信状況に従って、受信復調部120を動作させ、必要なデータの受信を行う。

【0023】無線チャネル選択部136は、受信復調部102にて復調を行う無線チャネルの周波数を決定する。一たび、受信を行う無例えば線チャネルが決まった段階(「同期確定状態」という)においては、選択した周波数の情報の設定のみを行うが、例えば電源投入直後や復調されたデータの誤りがひどく同期状態の維持が不可能とデコード部131が判断した場合、間欠受信制御部135のタイミング指示に従い、iDROM106に格納された周波数データを順次、受信復調部102に設定し、デコード部131にて受信可能な状態であると判断された周波数にて同期確立し、メッセージの着信動作に移行する一連の動作を司る。

【0024】ユーザインタフェース制御部133は、スイッチ部105を通して受信機携帯者の入力設定操作を検出し、設定された操作に応じてメッセージ保持部132から必要なデータを取り出して表示部104に表示させる動作や、電源ON/OFFの制御を司る。

【0025】またユーザインタフェース制御部132は、受信機携帯者の入力操作に応じて、エリアの自動選択の可否を入力を求め、必要な付随情報の入力を促し、入力された一連の情報を選択動作制御部137に伝達する。

【0026】選択動作制御部137は、必要に応じて、無線チャネル選択部136が新しい周波数を自動選択する動作を禁止する。また無線チャネルの選択動作を禁止する時間が有限の場合、計時部138にて、時間の計測を行い、禁止期間が終了した場合、無線チャネル選択部136における無線チャネルの選択動作を再度許可する。

【0027】受信機の携帯者がスイッチ部105から予め定められた所定の操作を行った後、再度予め定められた所定の操作を行って解除をするまでの間、選択動作制御部137の制御により、無線チャネル選択部136における無線チャネルの自動選択を行う動作を停止させる。あるいは、受信機携帯者が自動的な無線チャネルの選択機能を停止させる設定操作スイッチ部105で行う際に、再度自動無線チャネル選択機能を再開するまでの期間、あるいは、再開する時間を指定する構成としてもよい。

【0028】図2及び図3は、本発明の一実施例の無線選択呼出受信機の動作を説明するためのフローチャートである。

【0029】電源投入後(ステップ201)、無線チャネル切換処理(ステップ202)にて、無線チャネル選

10

20

30

40

50

択部136はiDROM106に格納された周波数リストから周波数を1つ選び、受信復調部102に設定を行う。

【0030】この後、受信動作開始(ステップ203)にて、間欠受信制御部136が動作を開始し、受信復調部102の間欠動作させて必要なデータの受信を試みる。

【0031】デコード部131は、受信復調部102で復調されたデータの誤り状態や、復調されたデータと、iDROM106に格納された現在受信中の周波数の基地情報等との比較結果を基に、現無線チャンネルで同期確立が可能であるか否かの判断を行い(ステップ204)、現無線チャンネルで同期確立が困難であると判断すると、ステップ202の無線チャンネル切り換え処理に戻り、iDROM106の周波数リストの次の周波数に対して、同様の動作を行う。

【0032】これらの一連の動作は、同期確立可能な無線チャンネルが見つかるまで繰り返して行われる。

【0033】ステップ204にて、現在の無線チャンネルでの同期確立が可能であるものと判断した場合、同期確立し、現在の無線チャンネルでのメッセージ受信可能状態(ステップ206)に移行する。

【0034】この際、誤り状態等を監視して、同期の維持が可能であるか否かの判断(同期監視)も同時に行い、同期の維持が困難となった場合には、無線チャンネル選択部136は、選択動作制御部137のステータスを確認して、新しい無線チャンネルへの切換が「許可」状態のステータスであれば、無線チャンネルの切換(ステップ202)に移行し、新たな周波数の選択を開始する。

【0035】無線チャンネルの自動選択動作が「非許可」(禁止)に設定されている場合、ステップ208にて、計時部138のチェックを繰り返し、計時部138がカウントアップ(タイムアウト)するまで、ステップ209にて、圏外受信動作(同期信号サーチ)を行う。ここで、圏外動作とは、新たに受信可能な周波数を探すことでなく、現無線チャンネルにて、再度、同期確立を試みるもので、再度受信が可能な状態となった場合には、ステップ205の同期確立に復帰する。

【0036】図3は、受信機携帯者がスイッチ操作を行い、エリア(無線チャンネル)の自動選択の可否の設定を行う際の動作の一例を示すフローチャートである。

【0037】まず、受信機携帯者によるスイッチ操作(ステップ301)が行われた際に、エリア(無線チャンネル)の自動選択の可否を選択し(ステップ302)、禁止が選択された場合には、ステップ303にて、禁止の期間を入力を促す。さらに、ステップ303で禁止期間が有限値であるか否か判定し、有限の場合には、選択動作制御部137は計時部138を起動し、カウントアップするまでの間、無線チャンネル選択部136の動作を禁止する。なお、入力された禁止期間をチェックした結

果、その値が法外に大きな値(無限値)、もしくは0、マイナス等の不正値の場合、スイッチ操作前の状態に復帰し、無線チャンネル選択部136の無線チャンネル自動選択動作の禁止は行なわない。

【0038】このように、本発明の一実施例においては、呼び出しを行うエリアにおいて、無線チャンネルの自動選択(再選択)動作を停止することにより、近接するエリア(無線チャンネル)において、その有効エリアがオーバーラップする際に、受信するチャンネルが頻繁に切り替わることを防ぐことができ、呼び出し登録エリアと受信チャンネルが一致しないことによるメッセージの呼び抜け、また、呼び出しを行うエリアの登録動作(位置登録)が頻繁に行われることを防ぐ。

【0039】次に本発明の第2の実施例について説明する。図4は、本発明の第2の実施例の構成を示すブロック図である。本発明の第2の実施例は、図1に示した前記実施例の構成に、制御メッセージ解析部439を備えている。図5は、本発明の第2の実施例における制御メッセージのフォーマットの一例を示す図である。

【0040】図4を参照すると、デコード部431は、iDROM106に格納された現周波数情報(基地情報)に対応する無線アドレスを検出した際、メッセージ保持部432に転送するのみでなく、制御メッセージ解析部439にも転送する。

【0041】制御メッセージ解析部439は、図5にその一例を示すメッセージフォーマットに従って、受信したメッセージの解析を行い、受信メッセージが制御メッセージであると判断した場合、その制御情報を、選択動作制御部438に転送する。

【0042】図5を参照すると、制御メッセージは、そのフォーマット501として、認識文字列欄11、動作/禁止設定欄512、時間設定欄513、通報指定欄514、メッセージ515を備えている。メッセージ例502は一つの具体例を示したものである。

【0043】認識文字列511は、通常のメッセージでは使用されない文字(いわゆる制御文字)や文字の組み合わせ(図5のメッセージ502例では、「SOH」と「E」と「L」を組み合わせたコード)により、当該メッセージが、制御メッセージであることを示すものであり、図5では、認識文字列511はメッセージ先頭部に配置されているが、メッセージ先頭に配置しなくてもよい。

【0044】動作/禁止設定情報512は、選択動作制御部437の動作ステータスを直接指示するものである。図5のメッセージ502例では、動作/禁止設定情報522として、「LOCK」が設定され、無線チャンネル選択動作の禁止指定である。

【0045】時間指定情報513は、選択動作禁止設定の場合、禁止状態の持続時間の指定を行う。図5のメッセージ502例では、時間指定情報523として、値2

40が設定されている。

【0046】本実施例においては、無線選択呼び出しのサービス提供者側により、エリアの自動選択の一時的な禁止を遠隔から行うものであり、オーバーラップエリアでの受信機のエリア変更が多発することを抑えるものである。

【0047】該当エリアが、オーバーラップゾーンであるか否かは、受信機携帯者より、無線選択呼び出しの提供者の方が情報が多いと考えられるので、制御メッセージによる遠隔操作は、その点で望ましい機能ではあるが、エリアの移動や、一時的に受信が困難な状態となること（ビルの地下にいる場合等）は、受信機携帯者の動向にもよることであるため、禁止期間の値は一般的なものはなく、無線選択呼び出しの提供者は、無線選択呼び出しの登録エリアにて、一定期間毎に制御メッセージを送信し、その間隔と等しい禁止期間を設定する等の運用が求められる。また、制御メッセージの制御による他にも、受信機携帯者が操作できるように構成してもよい。

【0048】通報指定情報514は、当該制御メッセージをメッセージ保持部432で保持し、受信機携帯者に対して通知を行うか否かの設定を示すもので、通知許可の場合、引き続きメッセージ515を表示する。

【0049】メッセージ515は、制御メッセージであることや制御の内容を示すものが想定されるが、エリア名等の情報の送信と兼用することもトラヒックの有効的な利用につながる。図5のメッセージ例502では、通報指定情報524は「ON」であり、メッセージ525として「LOCK」が表示される。これにより受信機携帯者は無線チャネルの再選択動作が禁止されたことを認識する。また本実施例においては、スイッチ部405からの設定入力により、無線チャネル再選択動作禁止の設定時間（制御メッセージで指定された時間）を変更可能に構成してもよい。

【0050】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、呼び出しを行うエリアにおいて無線チャネルの自動選択（再選択）動作を停止することにより、近接するエリア（無線チャネル）においてその有効エリアがオーバーラップする際に、受信するチャネルが頻繁に切り替わること＊

＊を防ぐことができ、呼び出し登録エリアと受信チャネルが一致しないことによるメッセージの呼び抜け、また、呼び出しを行うエリアの登録動作（位置登録）が頻繁に行われることを防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の一実施例の処理手順を示す流れ図である。

【図3】本発明の一実施例の処理手順を示す流れ図である。

【図4】本発明の第2の実施例の構成を示す図である。

【図5】本発明の第2の実施例で用いる無線チャネルの自動選択機能の遠隔操作メッセージの一例を示す図である。

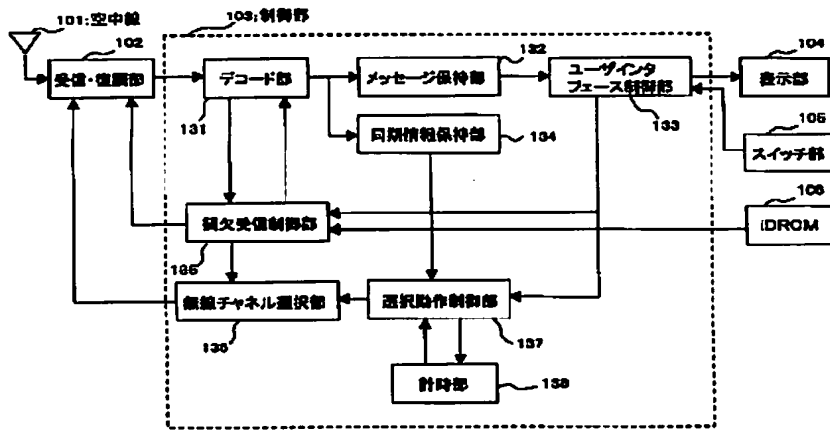
【符号の説明】

| | |
|---------|---------------|
| 101、401 | 空中線 |
| 102、402 | 受信復調部 |
| 103、403 | 制御部 |
| 104、404 | 表示部 |
| 105、405 | スイッチ部 |
| 106、406 | iDROM |
| 131、431 | デコード部 |
| 132、432 | メッセージ保持部 |
| 133、433 | ユーザインタフェース制御部 |
| 134、434 | 同期情報保持部 |
| 135、435 | 間欠受信制御部 |
| 136、436 | 無線チャネル選択部 |
| 137、437 | 選択動作制御部 |
| 138 | 計時部 |
| 438 | 選択制御刑事部 |
| 439 | 制御メッセージ解析部 |
| 502 | フォーマット |
| 511、521 | 認識文字列 |
| 512、522 | 動作／禁止設定 |
| 513、523 | 時間指定 |
| 514、524 | 通報指定 |
| 515、525 | メッセージ |

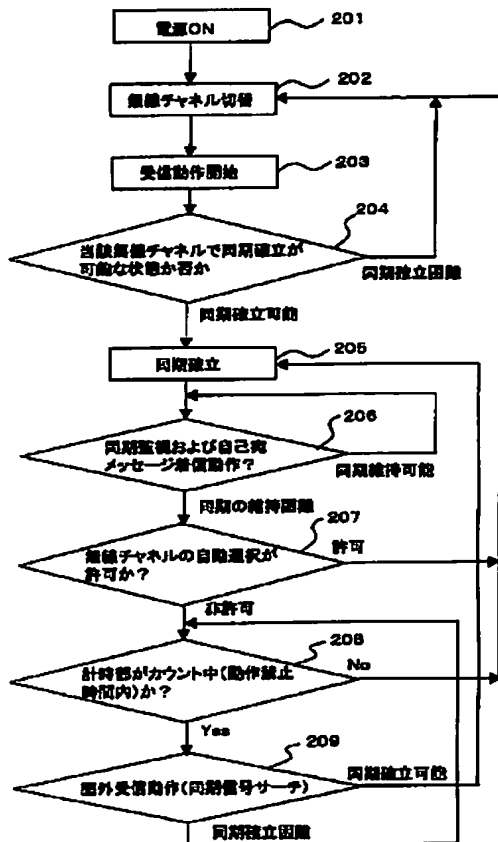
【図5】

| | | | | | |
|------------|-------------|---------|-------|------|--------|
| | 511 | 512 | 513 | 514 | 515 |
| 501 フォーマット | 識別文字列 | 動作／禁止設定 | 時間指定 | 通報指定 | メッセージ |
| | 521 | 522 | 523 | 524 | 525 |
| 502 メッセージ列 | SON+"S"+"L" | "LOCK" | "240" | "ON" | "LOCK" |

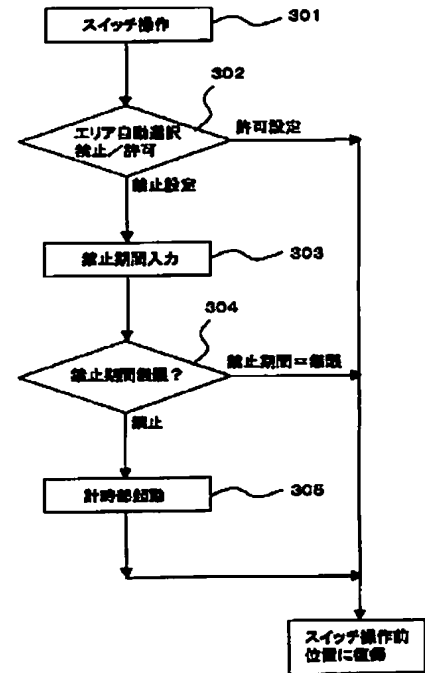
【図1】



【図2】



【図3】



【0023】無線チャネル選択部136は、受信復調部102にて復調を行う無線チャネルの周波数を決定する。一たび、受信を行う例えば無線チャネルが決まった段階（「同期確定状態」という）においては、選択した周波数の情報の設定のみを行うが、例えば電源投入直後や復調されたデータの誤りがひどく同期状態の維持が不可能とデコード部131が判断した場合、間欠受信制御

部135のタイミング指示に従い、i DROM106に格納された周波数データを順次、受信復調部102に設定し、デコード部131にて受信可能な状態であると判

断された周波数にて同期確立し、メッセージの着信動作に移行する一連の動作を司る。